

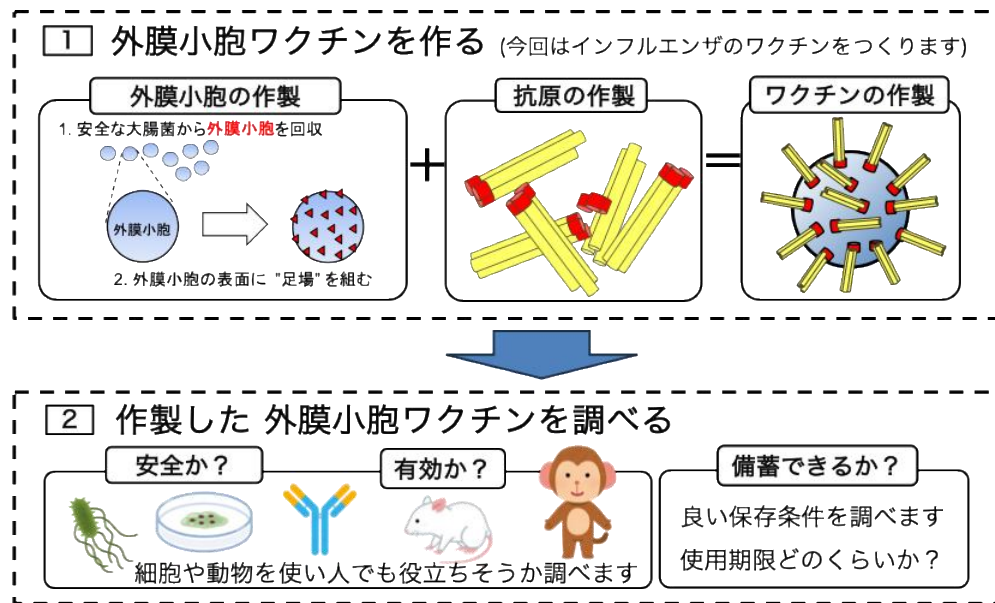
外膜小胞でつくるインフルエンザワクチン

■ 研究者情報



- 研究者名：中尾龍馬、山口雄大、安部公博、相内章
- 所属：細菌第一部、感染病理部
- 共同研究先：筑波大学、京都大学 等

■ 研究アイデア・技術シーズ



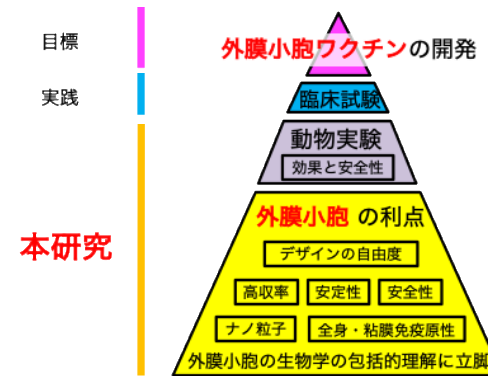
■ 背景・解決したい課題

- 外膜小胞でつくるワクチン開発基盤の確立

■ 研究概要図

- 外膜小胞ワクチンのプラットフォームは、外膜小胞を共通の担体に用いるユニバーサルかつ安全な新規ワクチンモダリティ
- 今回はインフルエンザを研究開発の対象にしますが、抗原を変えれば、その他の重点感染症を含めた様々な感染症に対するワクチン開発への展開が可能です

感染症有事に向けた強固な備え



■ 今後の計画等

- 本研究開発は、AMED SCARDA ワクチン・新規モダリティ研究開発事業の支援を受けて実施中である。外膜小胞でつくるインフルエンザワクチンは、非臨床POC取得後の令和9年以降の第1相試験開始を目指している。
- 外膜小胞ワクチンの共同研究開発に興味のある製薬企業・CDMO (企業の規模、国内・国外を問わず)、連携先を探索している。
- 知財：特許第7279274号、特願2025-143488